

攝津名所圖會

大坂部四下

和装本  
儿 4  
3651  
5





全書門  
1606 號  
5 天

高津島居  
厚之格

十  
廿三  
平  
報



門 凡 4  
號 3651  
卷 5



高津鳥居  
梅之檣

三つ

しんま

うき

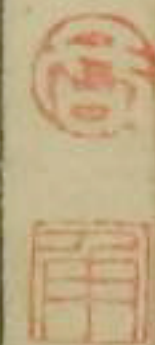
初吉

うさ

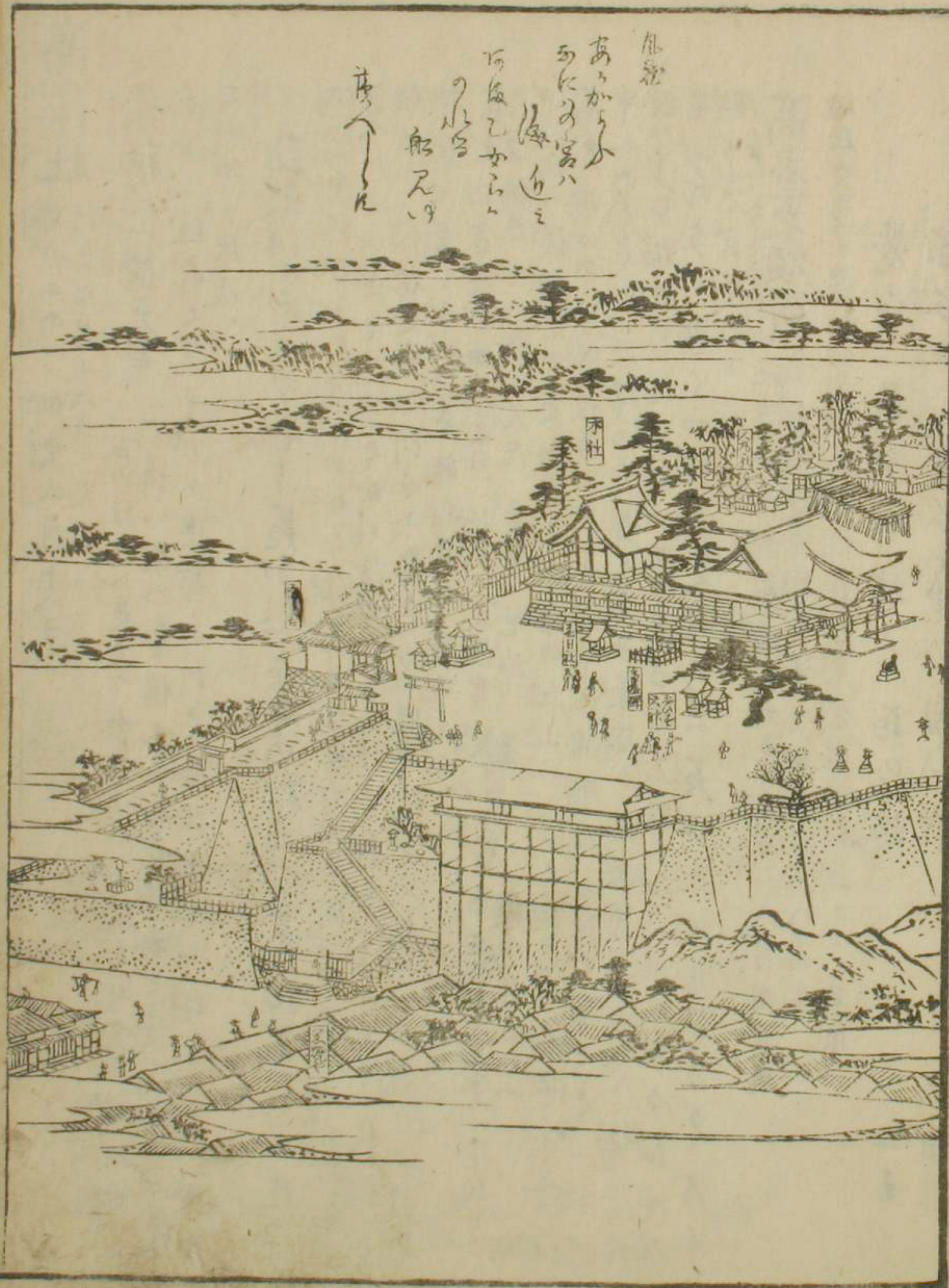
か  
子代



昭和廿三年  
九月廿三日  
購求







船  
 あらから  
 河にみま  
 海邊  
 河邊にから  
 船  
 船  
 唐へ



高津社

信  
 竹月も  
 あり  
 新  
 あり  
 あり  
 あり  
 あり



高津社

郡戸あり例祭六月十八日  
秋祭九月十八日

祭神仁徳天皇

上古の社地は是よりあり  
至り所は原へ遷都ありて  
仁徳天皇平安遷都ありて  
俗北平也

難波は小宮ありて

難波は小宮ありて  
仁徳天皇と所々小宮あり  
舊跡ふりての勸誘く  
勸めよめく

末社比賣神

比賣神八幡人丸  
愛宕厄神梅之橋  
梅の過とよ  
多右の内ありあり

高臺之頌碑

社頌あり  
平安末  
浪華年  
平分  
高臺之頌碑  
非非高臺碑の紀論あり不取

夢あり

夢あり  
家戸梅もふと中の句ひ  
斑井

高臺和哥論

新古今類聚のよめりて  
仁徳天皇御哥  
高臺和哥論

仁徳天皇御哥  
高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

高臺和哥論

上小竹葉野

藤屋茶出或云生玉のち右より  
東小の方と都く上小竹葉野といふ

上小竹葉野

上小竹葉野

上小竹葉野

上小竹葉野

上小竹葉野

上小竹葉野





高津宮の下  
 黒焼の店  
 然るに虎の皮の  
 諸君の遊覧頻か  
 鳳凰のふれども  
 其外へ行く  
 双へく自を  
 黒焼の店  
 その大膳の  
 小こもの  
 の角の園  
 まても黒焼  
 其鍋を飾  
 りては  
 双へく



南瓦屋所

領師



摺出五十五

伊澤彫

綱引とるみ川の流をよこさくねくわけし紫世小田鶴とて

道頓堀

大阪の南極より東横堀より流く日吉橋の西より

夕暮に難波の夕暮をよこさくねくわけし紫世のあててんたり

大傍止り慶新後撰集小海多とて道頓堀之内の夕氣色と  
 都み方らぬ難波女の色白く清くふ出立と錦繡と海やひ珠の  
 髪指落ちるむやう女伶あり男娼あり送るあり迎ひあり芝居側の  
 置したる四時たまきま川初春の十日軽子より梅白ひ初花ひら  
 くは天王寺の聖並會彼春参り寺社の向帳位右の夕干六月  
 の市田極みる月の交糸船遊びの花火難波の夕涼名月後の月  
 紗魚けり種とり十夜藤軽子藤若の曙よ夜顔見世あり月毎  
 の大師巡音茶師宵夜申勧進徒大相撲まてみかひ里の福ひりて  
 下風の聲色法師の琴の音あり難波江の流級はくそそその  
 流ありて其流の身の志づり止りて堰み花の散やう賃ねりて







芝居側  
道頓堀



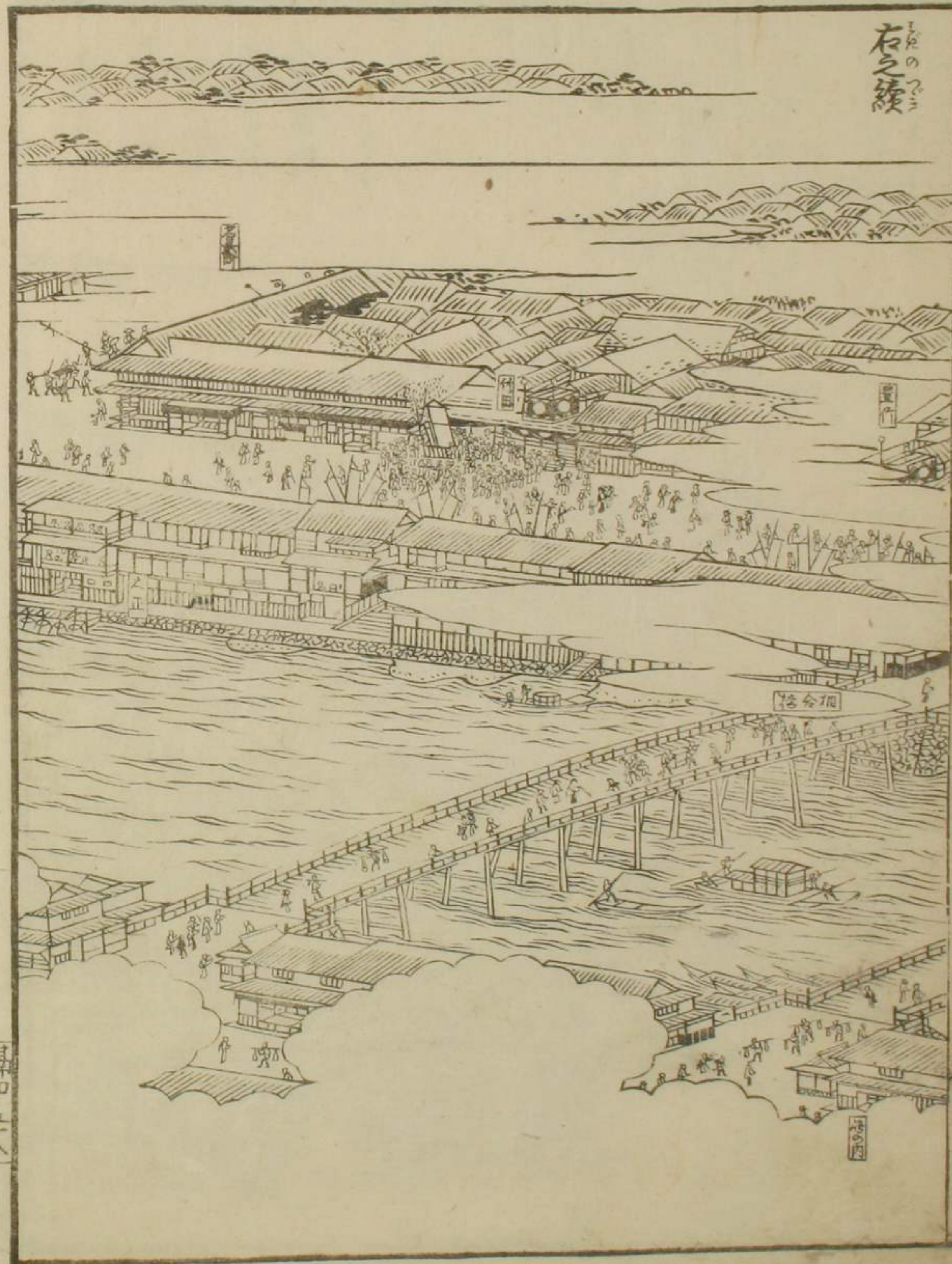
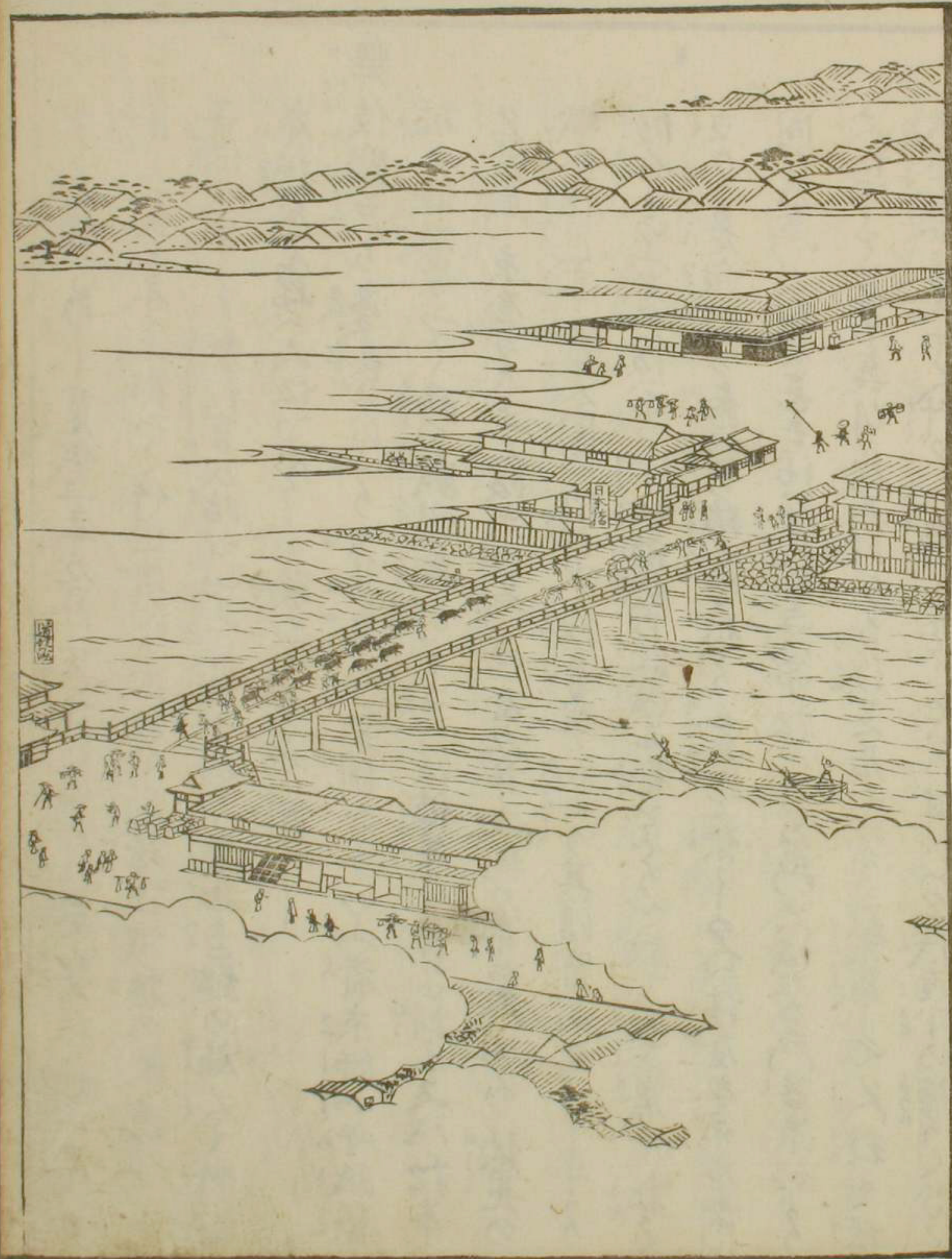
橋四九七

伊澤彫

浪華客舎歌  
大橋一百八  
小橋未知名  
張燈酒家夕  
人影水中行  
六知巷









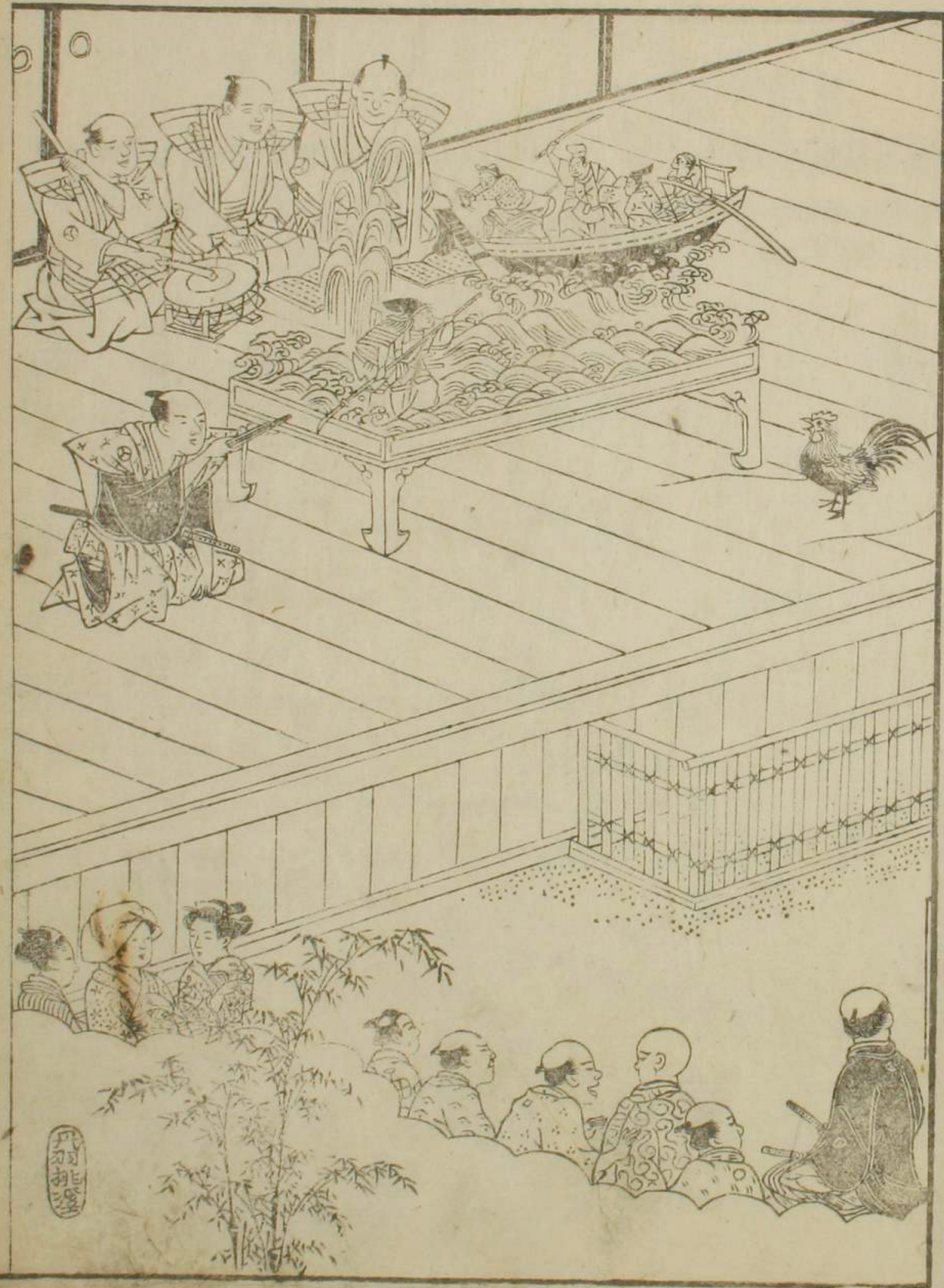
少く史領をぬく寛保二年九月二日二代の近江清英死すれは則安平助  
儀より同二年京都より竹田進江と成於今相續は機換の若藪より  
子供瓜やしく戯言瓜始むは芝居世小高く東色を鄙の旗人より竹田  
彦操瓜又種瓜大坂(あり)一駿ふしとや(圃)一

舞伎樂戸も慶長の頃より名古屋とこお圃ふやりの者京師小世祇園  
林五條河原より始て戯場興りし其後彼等が才子村と又八松本  
名左馬(系登万太夫大坂太左馬)塩登九布次同九布次(あや)伏見の  
城(上)指月亭豊太園の所ありて狂言盡て初より其後寛永年中京より  
伝ふといふ者大坂(下)下難波領の頭城小都よりと教て傳芝居(初)く  
立ちり是難波(あ)嘉奴の始とせれり女藝を禁しり(あ)塩登九布次(あ)門  
同九布次(あ)大和登甚き清河内登(あ)常松本名左馬(あ)大坂太左馬(あ)若系(あ)若  
大坂(下)芝居興り(あ)其に(あ)みか(あ)演芝居(あ)次(あ)小繫(あ)昌(あ)て(あ)人(あ)教(あ)も(あ)坊  
若系(あ)變(あ)童(あ)八(あ)十(あ)人(あ)計(あ)り(あ)入(あ)初(あ)と(あ)せ(あ)り(あ)其(あ)に(あ)名(あ)代(あ)座(あ)本(あ)の(あ)極(あ)り(あ)も(あ)か(あ)く

猪(あ)小(あ)世(あ)瓜(あ)る(あ)次(あ)坊(あ)小(あ)慶(あ)安(あ)年(あ)至(あ)り(あ)名(あ)代(あ)も(あ)改(あ)り(あ)て(あ)る(あ)を(あ)圃(あ)一(あ)今(あ)  
む(あ)り(あ)小(あ)世(あ)瓜(あ)る(あ)名(あ)代(あ)も(あ)改(あ)り(あ)て(あ)る(あ)を(あ)圃(あ)一(あ)今(あ)  
い(あ)り(あ)も(あ)十(あ)倍(あ)り(あ)室(あ)の(あ)梅(あ)咲(あ)初(あ)る(あ)初(あ)月(あ)の(あ)に(あ)あ(あ)の(あ)顔(あ)見(あ)世(あ)や(あ)り(あ)万(あ)能(あ)と(あ)て(あ)  
一(あ)並(あ)瀬(あ)が(あ)幕(あ)小(あ)演(あ)の(あ)お(あ)打(あ)櫓(あ)太(あ)鼓(あ)の(あ)音(あ)も(あ)樓(あ)船(あ)瓜(あ)早(あ)く(あ)の(あ)芝(あ)居(あ)り(あ)  
色(あ)長(あ)大(あ)振(あ)袖(あ)と(あ)樂(あ)戸(あ)入(あ)生(あ)旦(あ)淨(あ)渾(あ)丑(あ)等(あ)ら(あ)み(あ)か(あ)顔(あ)の(あ)色(あ)に(あ)  
形(あ)一(あ)角(あ)の(あ)芝(あ)居(あ)中(あ)の(あ)戯(あ)場(あ)と(あ)て(あ)ま(あ)み(あ)大(あ)入(あ)の(あ)札(あ)と(あ)出(あ)角(あ)凡(あ)ら(あ)切(あ)雅(あ)拾(あ)  
と(あ)く(あ)果(あ)の(あ)あ(あ)り(あ)始(あ)る(あ)あ(あ)り(あ)ろ(あ)は(あ)茶(あ)登(あ)の(あ)暖(あ)簾(あ)今(あ)り(あ)て(あ)之(あ)に(あ)似(あ)ど(あ)い(あ)演(あ)側(あ)ら(あ)  
み(あ)か(あ)け(あ)潤(あ)り(あ)て(あ)表(あ)杖(あ)の(あ)懸(あ)ひ(あ)遠(あ)近(あ)大(あ)坂(あ)一(あ)至(あ)れ(あ)を(あ)あ(あ)て(あ)日(あ)の(あ)芝(あ)居(あ)め(あ)く(あ)  
日(あ)瓜(あ)種(あ)る(あ)圃(あ)一

戲棚梨園(あ)竹(あ)本(あ)豊(あ)竹(あ)と(あ)あ(あ)座(あ)あり(あ)義(あ)を(あ)芝(あ)居(あ)初(あ)り(あ)者(あ)ら(あ)貞(あ)享(あ)  
二年(あ)の(あ)に(あ)東(あ)生(あ)郡(あ)大(あ)王(あ)寺(あ)村(あ)小(あ)五(あ)布(あ)去(あ)清(あ)と(あ)り(あ)農(あ)ま(あ)と(あ)り(あ)ひ(あ)もの(あ)生(あ)質(あ)  
津(あ)沼(あ)濱(あ)と(あ)好(あ)く(あ)京(あ)都(あ)の(あ)宇(あ)治(あ)加(あ)賀(あ)極(あ)と(あ)師(あ)範(あ)と(あ)若(あ)節(あ)秘(あ)曲(あ)瓜(あ)學(あ)ひ(あ)  
又(あ)井(あ)上(あ)播(あ)磨(あ)古(あ)流(あ)と(あ)傳(あ)て(あ)義(あ)太(あ)丈(あ)節(あ)の(あ)新(あ)風(あ)瓜(あ)ま(あ)り(あ)み(あ)何(あ)ら(あ)り(あ)



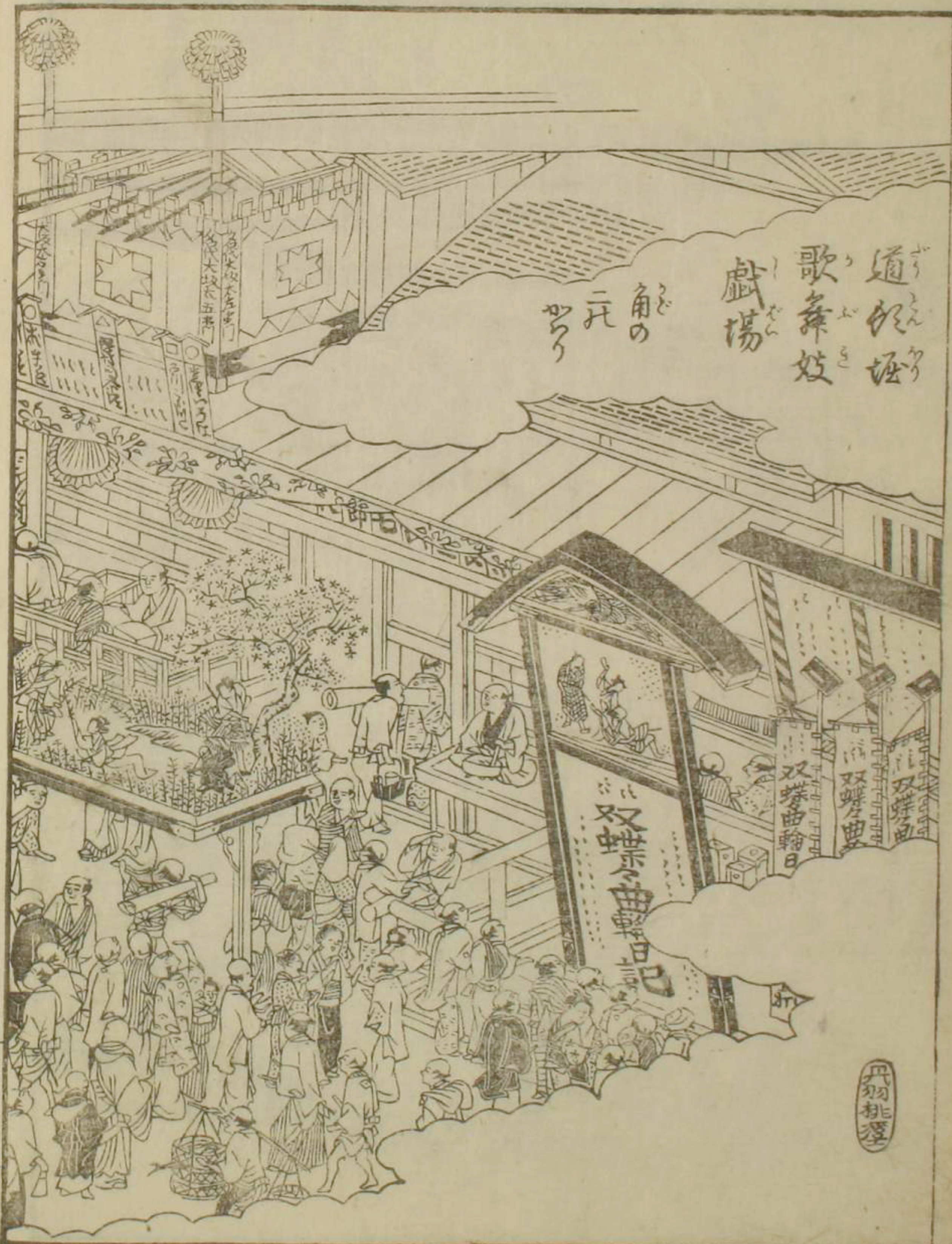








妓どつれ  
 芝居見  
 上橋  
 舟の舟  
 上橋  
 双橋  
 さりさり



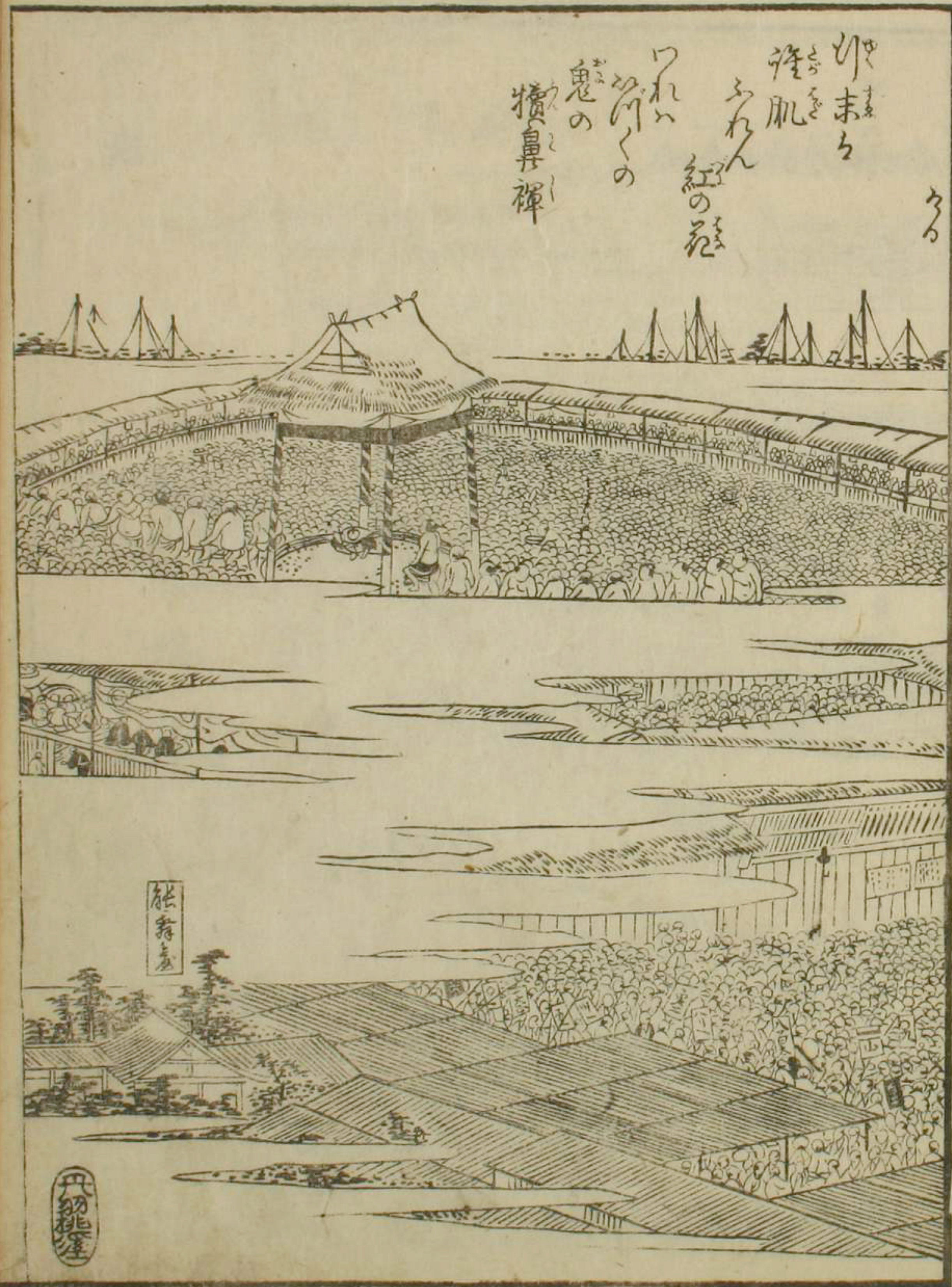
構四六十二

丹羽桃溪







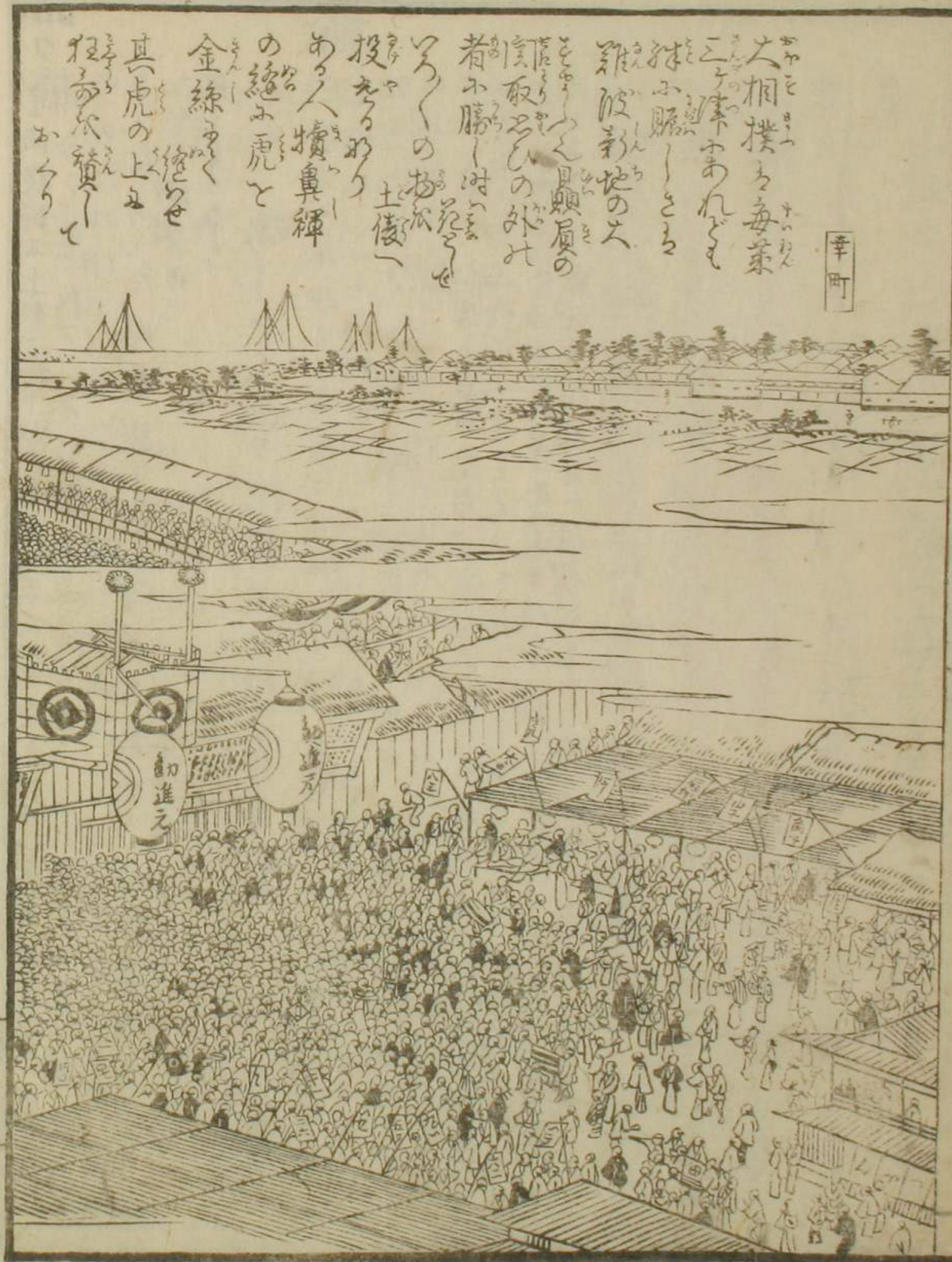


卯まら  
 産肌  
 ふん  
 紅の  
 鬼の  
 擯鼻禪

うら

能書

六初桃

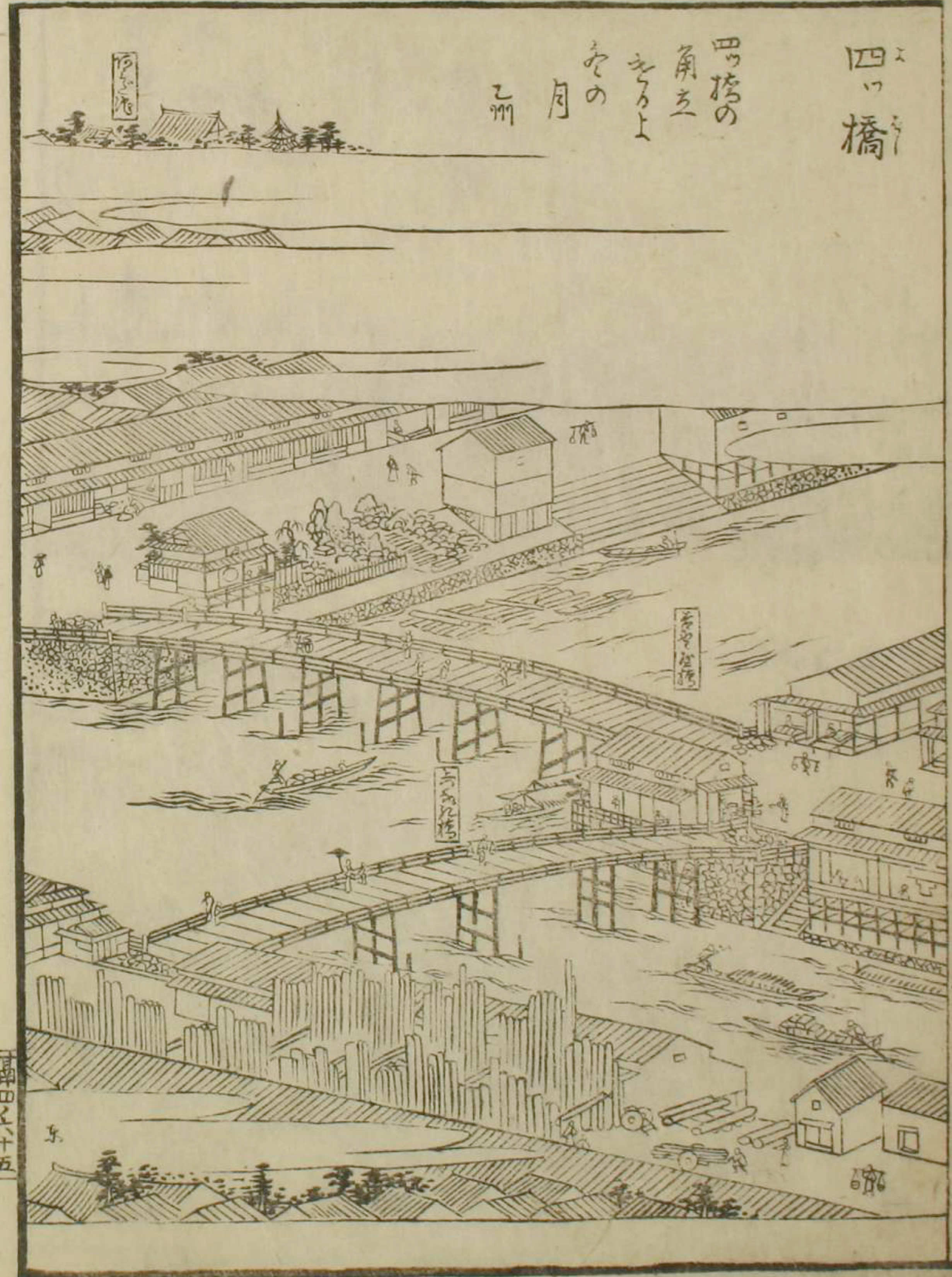
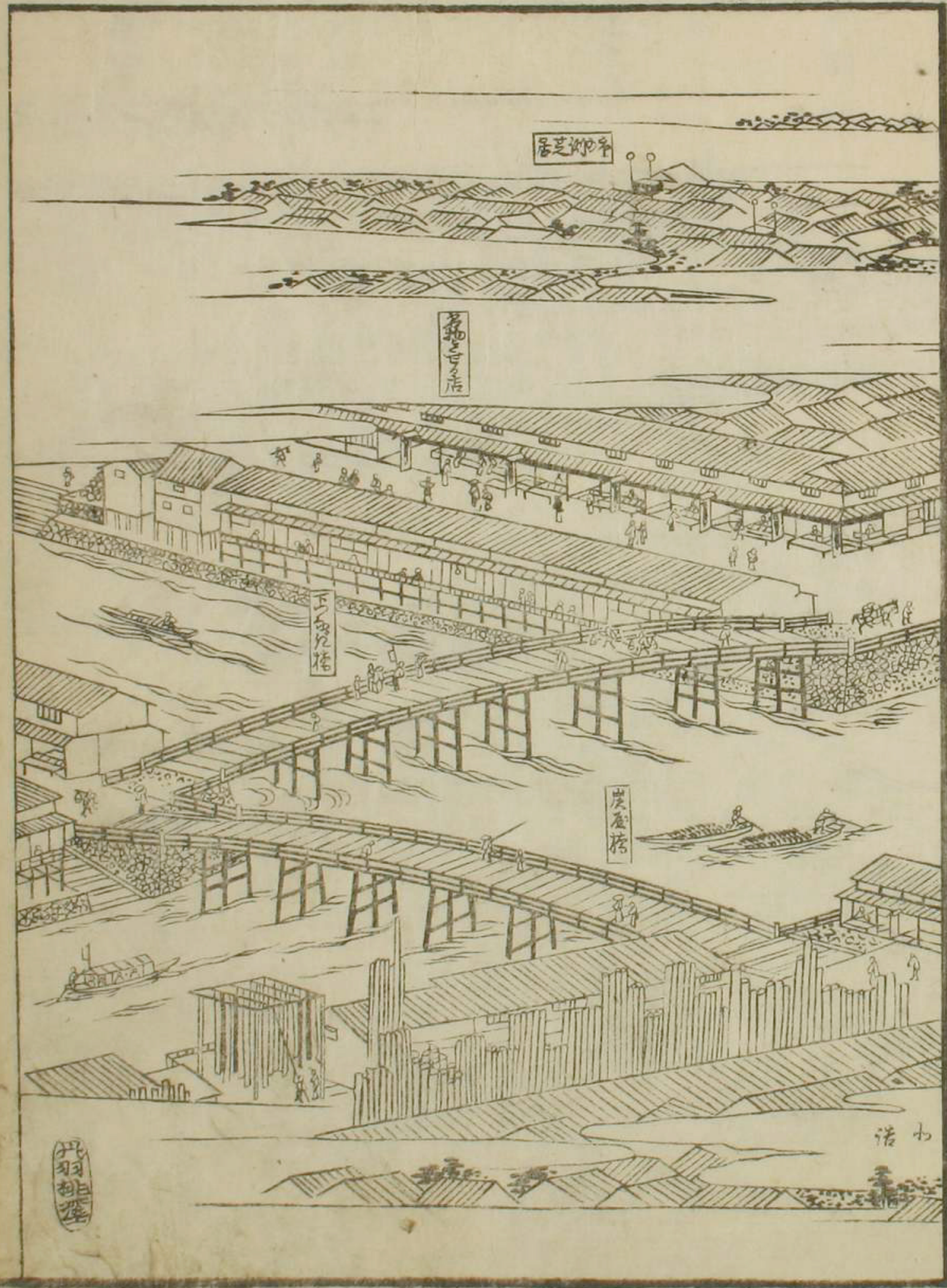


大相撲  
 三ノ木  
 難波  
 者不勝  
 投をり  
 あり人  
 の總  
 金絲  
 其虎の上  
 ねあは

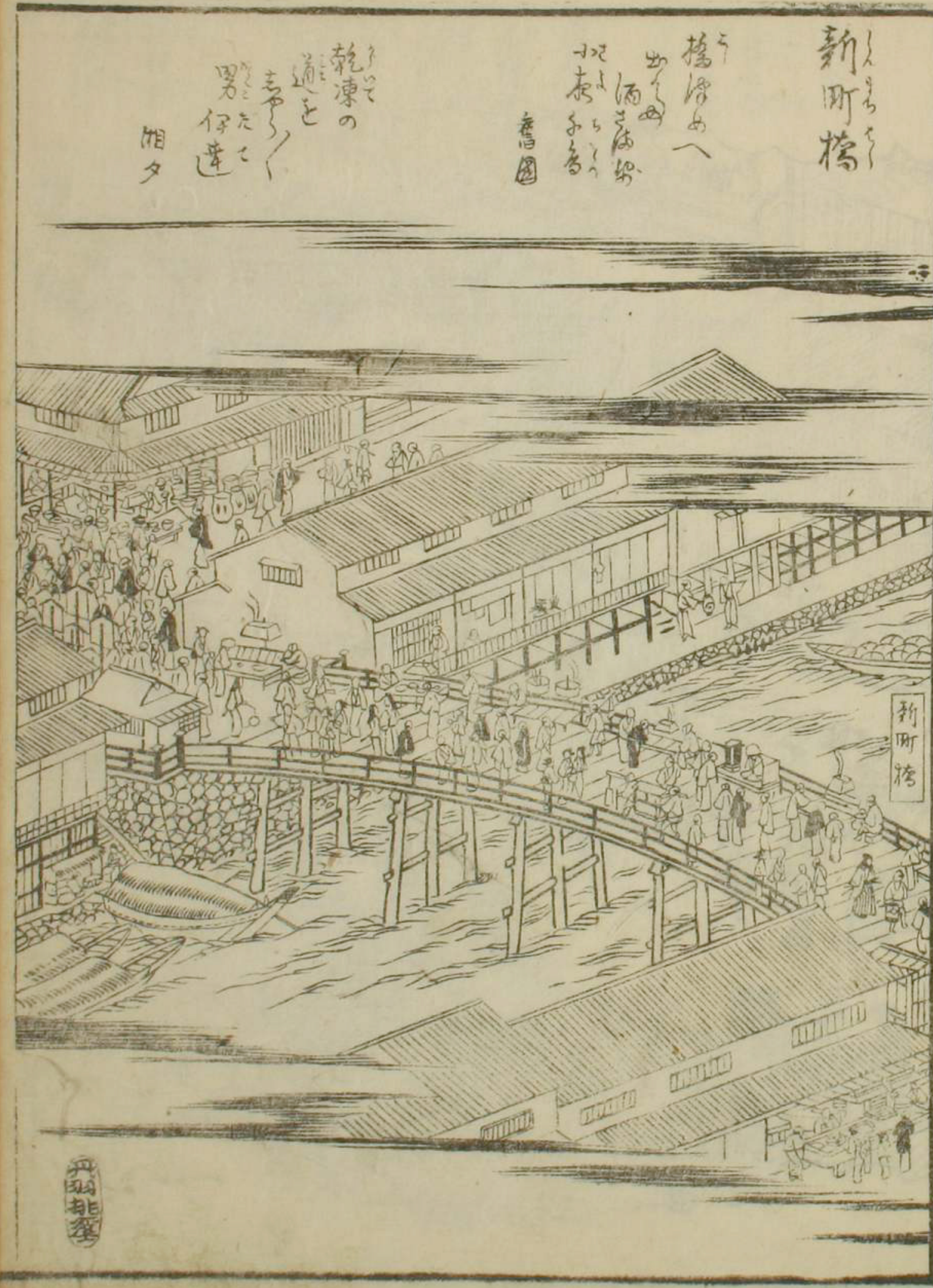
幸町

攝四六十四









新所橋

橋

酒  
子  
名

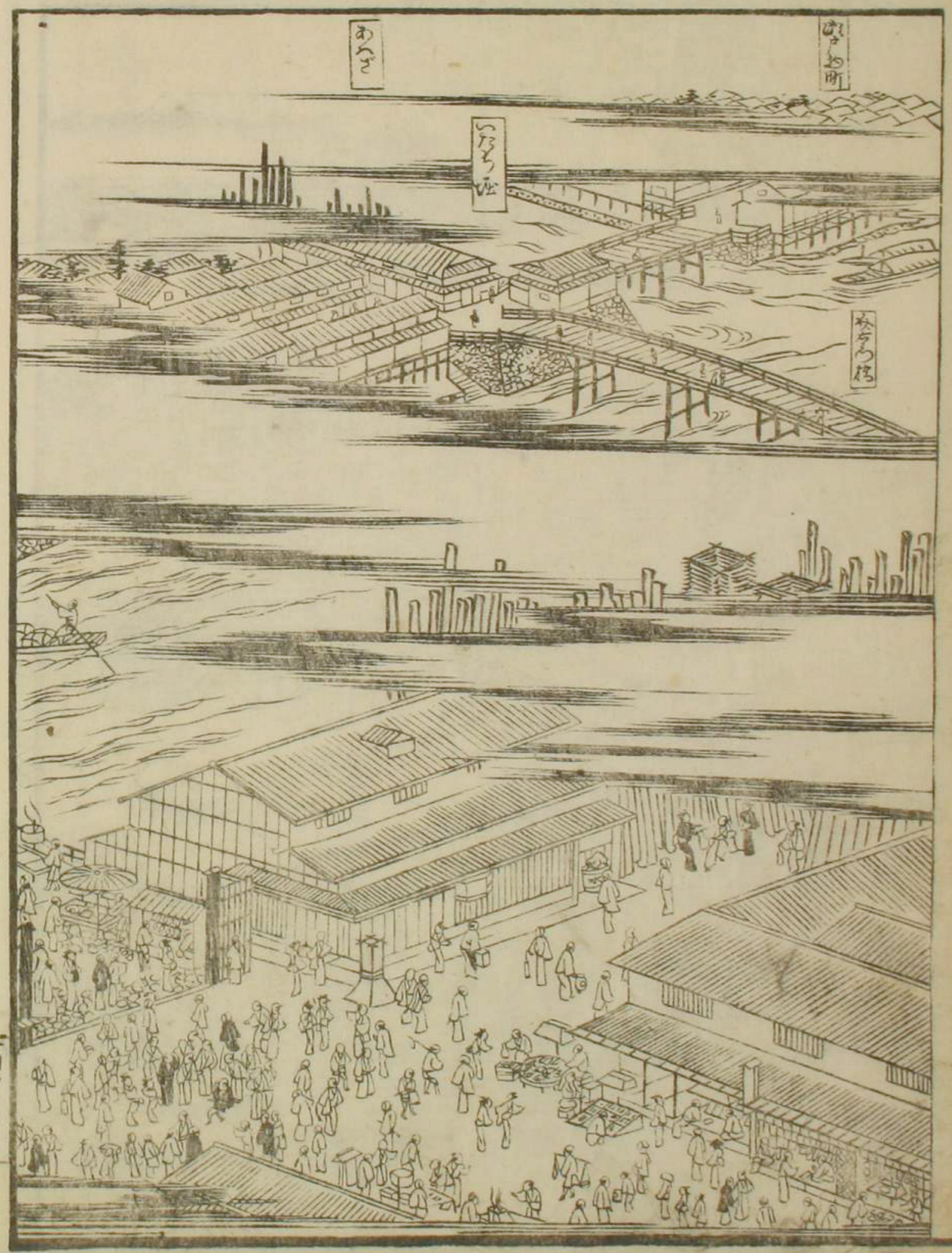
香園

乾凍の

通  
男  
伊  
達  
相  
夕

新所橋

丹羽能登



新所橋

新所橋

新所橋

補四六六





九軒  
 居はけ  
 人さんか  
 あり  
 南無三  
 放蕩  
 九軒  
 好し  
 遊の票  
 替ののそ  
 まれいよ

井上

井上



新町  
 九軒所

攝四六十七



新

新町橋 西延わより十二月の橋は煉瓦の順慶町西へ順城廓の入口にあり  
向石工の橋は東の方順慶町の内にありて橋をりて其町許の邊にあり  
名は津園寺の井の邊にありて別津園寺の旧地ありて今に於て町の  
石塔婆あり

新町順城廓 新町橋の西方四町といふ往昔正年中より民家建

續き海船の要津とされ其着船の所々小花魁の家あり其後

野原ありて弘寛永年中は地初に順城廓官家より津許

の邊に諸方の花魁をきつ所ありて田圃を闢れて新小町とせ

て世の人新町といふ柳陌の惣名とあり其初小本村亦次希といふ

伏見商人の頼ふより官より花巷の長とつとせらるは着瓢箪の

御馬車と名領して名を主園とせりて以て通り條に瓢箪町を以て

居室の町亦次希といふ又佐渡橋とて名を以て著上坊芳在に

其に今の地に移り開発の由縁よりいひ佐渡橋町といひ西に越後町  
といひ佐渡越後と圓双の故に吉原町に北に満吉原よりかくに後次

以旧名を以て町の名とて佐渡を町に船場高懸橋條の佐渡を以て

といふ者い廓を闢てありて故有て名領して町一帯を以て

よりより佐渡を町といふ其次に九軒町といふ初五造九軒茶屋を引移して

名を以て今に地六軒新町といふ初佐渡橋町といふ初中見ゆりて

は津に海船輻湊の地を以てむの江口神寄もかく在り長極傘

小高足駄紋日の道中身請の門出一笑千金の花は曙より二千里の

月のゆへも蘭麝の香ありて奇舞の聲糸竹の音洋をり

むうは廓小総角夕務吾妻ねとありては英全盛のときありて

世小名高に順城廓の石漢の李延年が傳よりかく國志の繁人と

一城の尊卑ありて一國の人民眼を送りて其容儀を賞むる

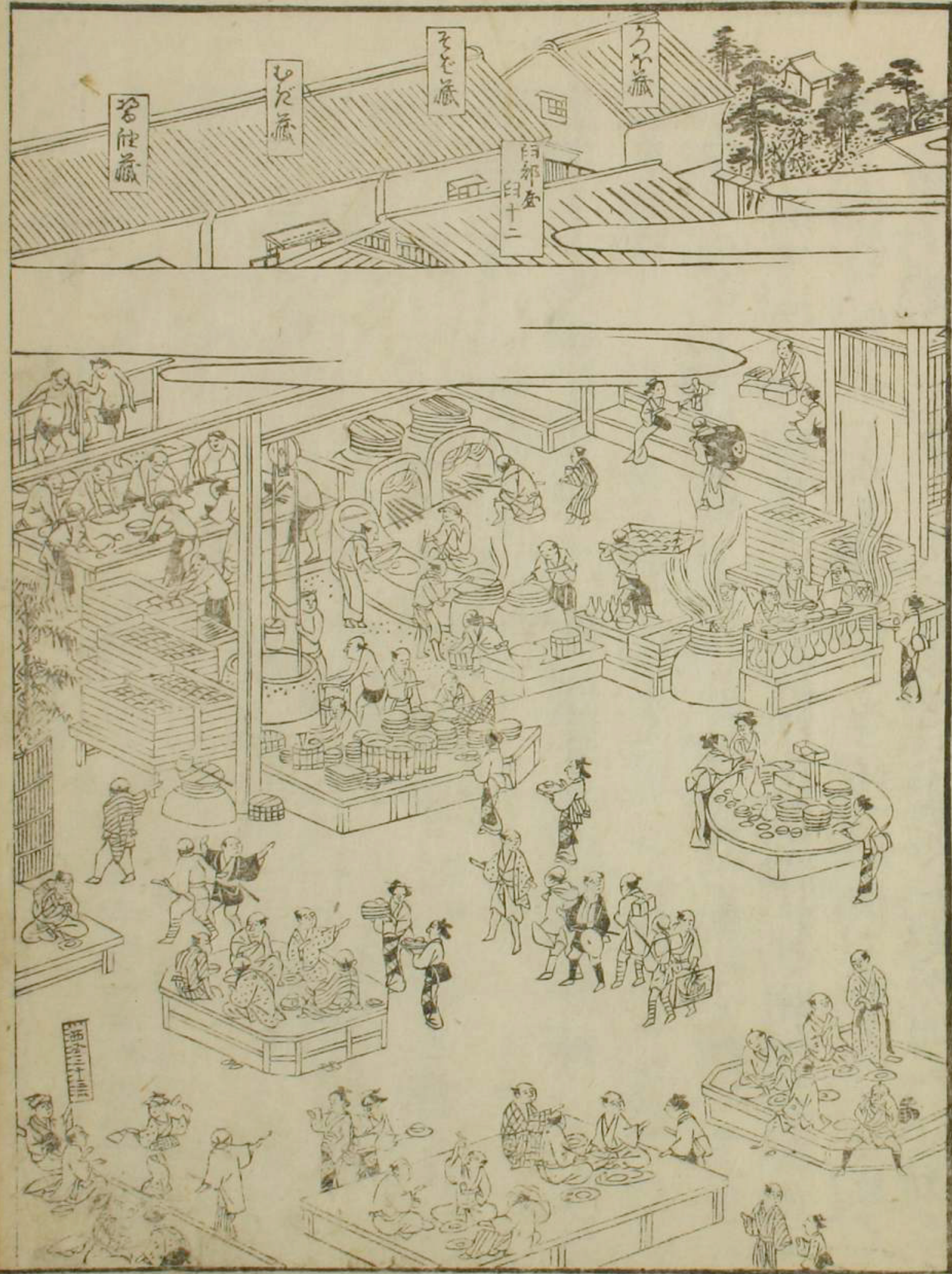
の邊に強小城を弊を國を摧て名を以ては廓初に大坂三郷の

西端ありて田圃を續けりて後世次第に市中蔓を以て今に難波津  
の真中とありて故に畧して中といふ









井上



備四十七



蓮池山和光寺

信別菩薩寺 智度院と號し

本尊阿彌陀一光之坐佛

金銅佛長七尺一寸 往昔伊皇國走湯山津連上人佛坐像 鑄造一々の方の多ふ

阿彌陀池

本堂のわのり池 中々寶塔あり 彌陀三尊 安置 次額あり

觀音堂

本堂の南

普門堂

觀音堂

愛深堂

本の門

林善地藏

東の門内

焰魔堂

日新小

地藏堂

小の方

金毘羅權現

金銅地藏

池の南

鐘堂

東門の

支當寺の阿彌陀池

欽明天皇の時 百濟國より 佛像

經卷と渡り

帝まはる信の事 大方なるに 拵る小物部守屋

大連尾連中長連等奏

曰我國神國之蕃神と云 中々事ハ

天津國津神の神怒

わん其上は 疫疾流りて 國民大患 悲しむ

早く追放ち候

と有る 有る寺塔と 確倒し あり 火放ち

佛像を燒喪を事多

其中 彌陀三尊 火に 焦次 確也 摧使

攝田七十二

井上

遂小難波掘江小葉

心 大卷

其後 本多若光と 少者 江新

過る小佛若

わんを 像 肩あり 信州へ 販る 今の若光寺 あり

其古跡を

と云 元禄十一年 智若上人 此地を 闢た 若光寺 同體の

本尊を安置

しむ ころの 常燈を 照し 松波の 精舎と 稱す

遠近を信

しむ ころ 諸人 間斷 なく 境内 あり 市店 軒 燈 燈 燈

門前の芝居

賑々 昔人 寺號を 唱ふ 阿彌陀池 といふ

聖蹟を賞

しむ ころの 潤る ころ 王林抄云 和州 市郡 豊備 寺乃

あり され 難波 掘江

といふ 今 ころ 守屋 大連 堂塔 燈 燈 燈

い ころ 海 あり 浦 あり

い ころ 豊備 といふ 難波 掘江 あり

難波 江 使定

といふ ころ といふ ころ といふ ころ といふ ころ

けりや蓮ふんれり居るん

包まれり水ものびる蓮の非

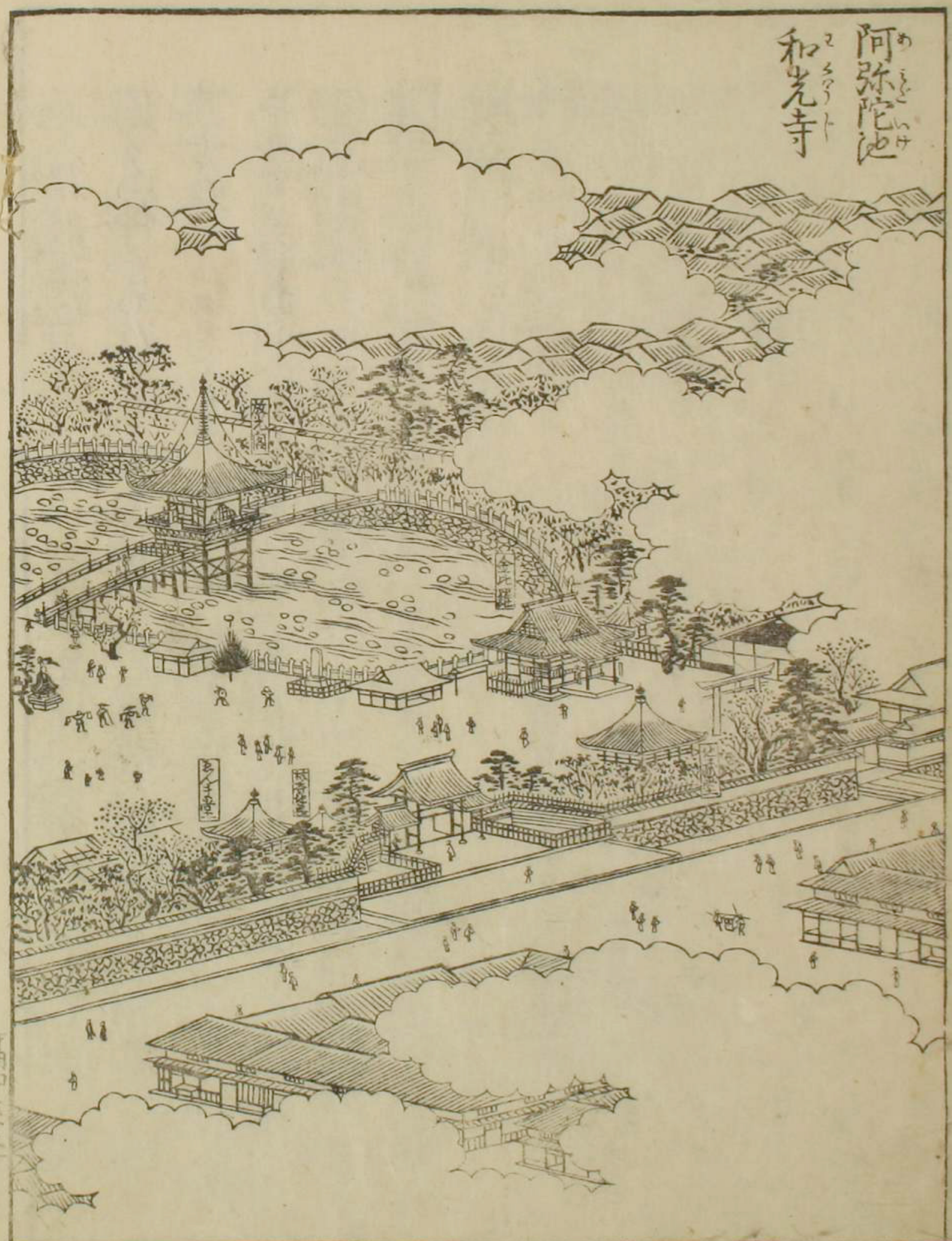
湖名

野波





井上

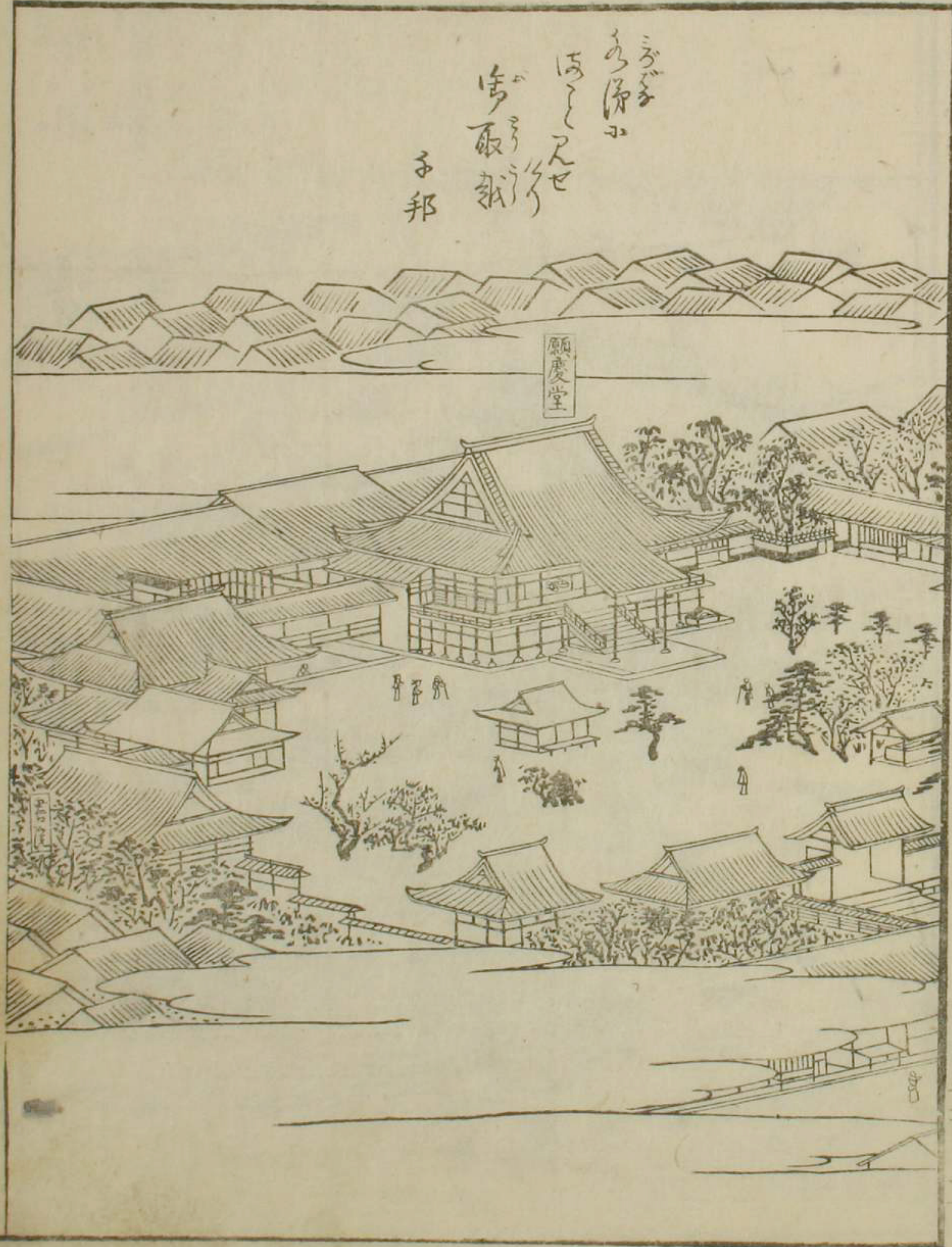


攝山



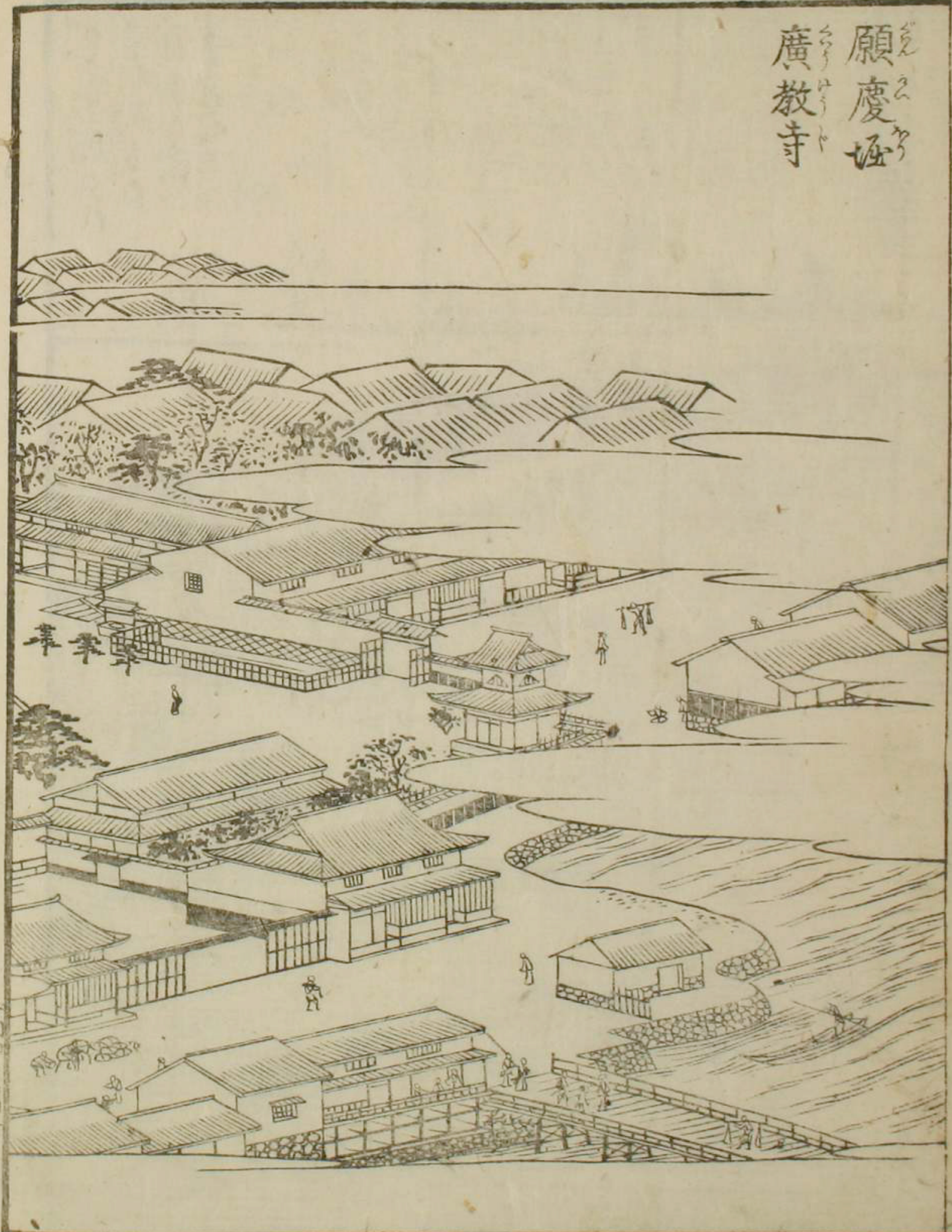






願慶堂  
 子邦  
 歩取  
 子邦

井上

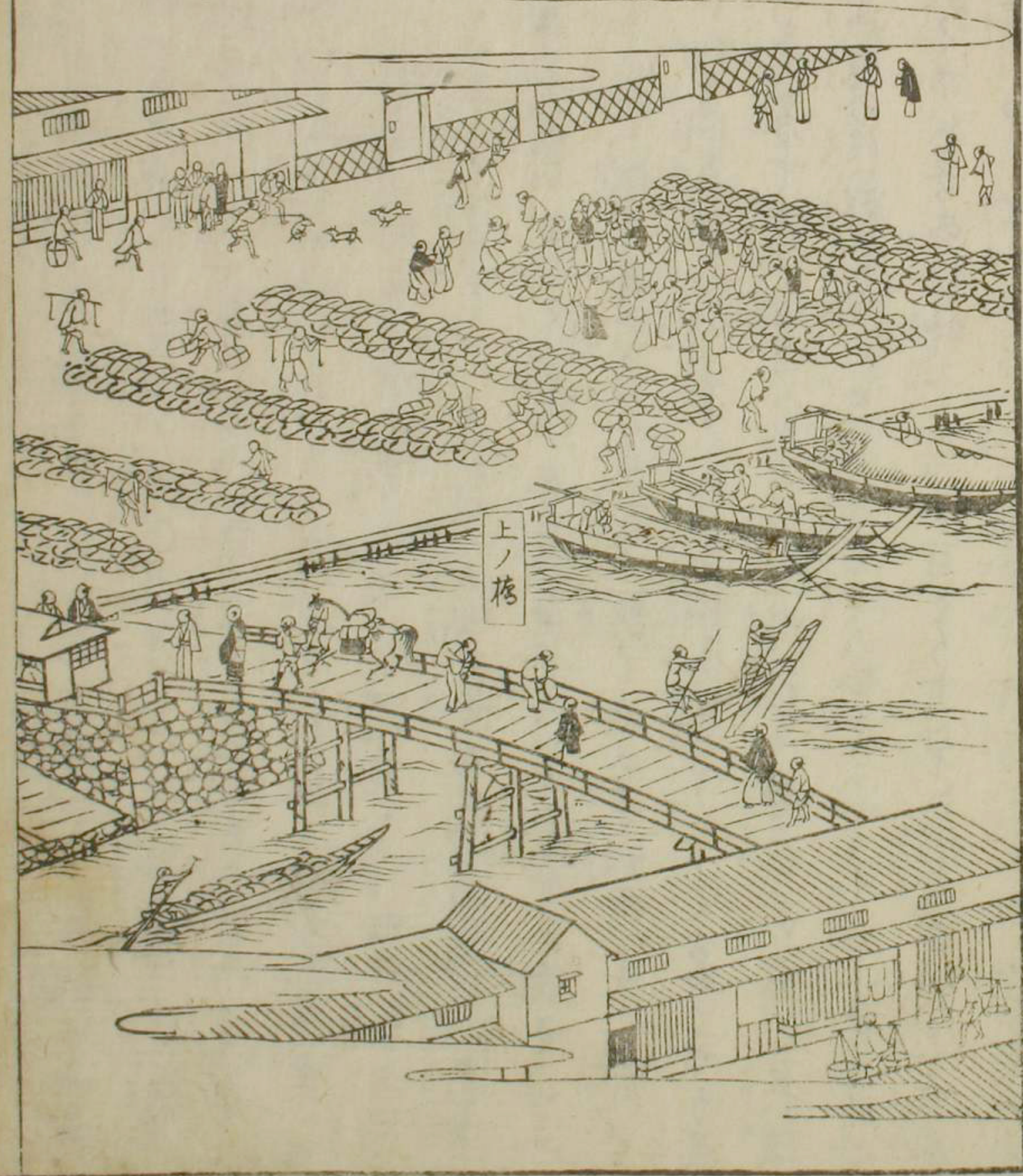


願慶堂  
 廣教寺

補四十四

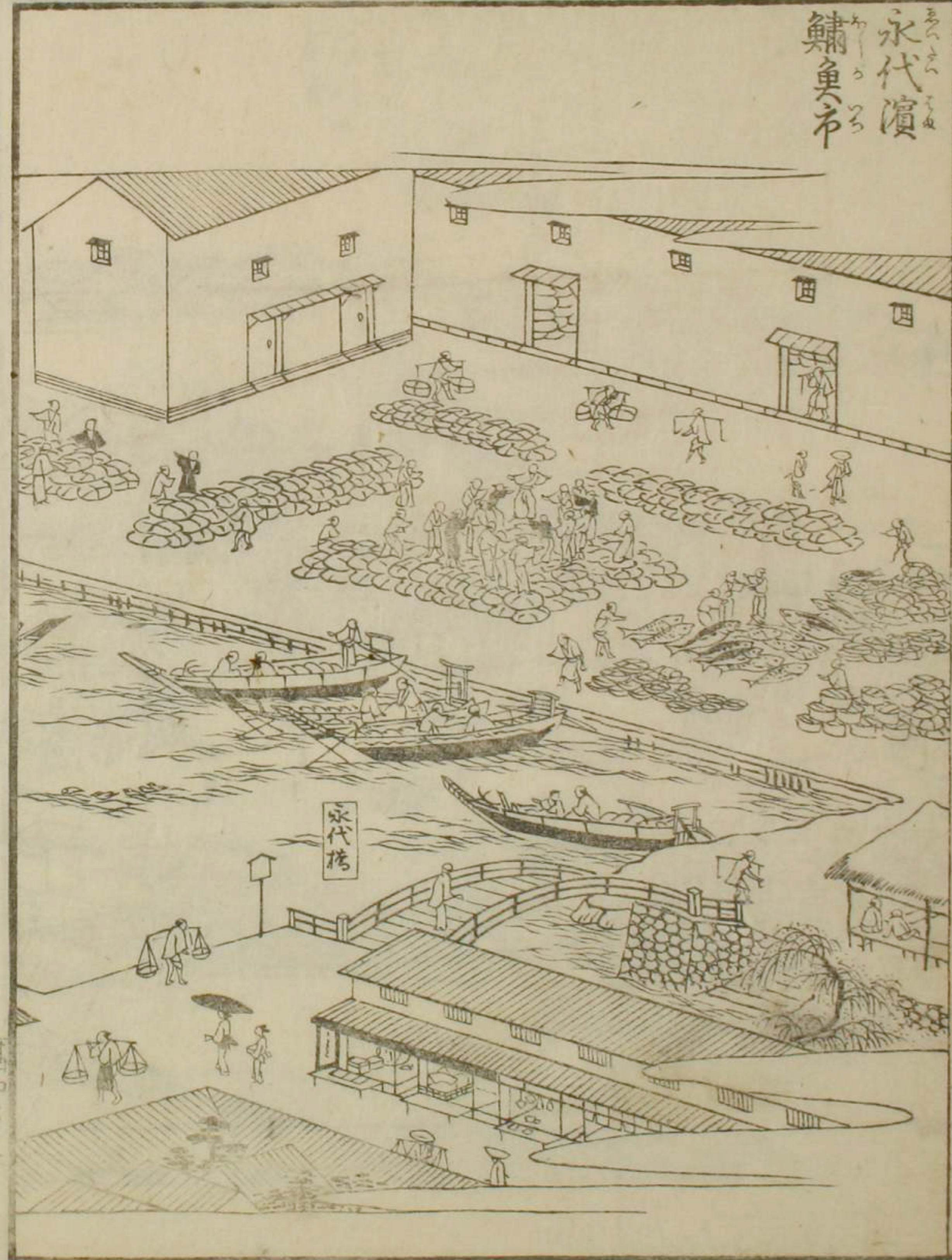


干魚と  
小園より  
多く採り  
本より  
向九  
市  
これと又  
諸國より  
農家の  
細末  
灰小倉  
田知の  
肥しと  
入



井上

永代濱  
鱈魚市



梅四七五



雜喉場の市は毎朝遠近の浦より鱈とあま運びく蟹網の小魚より鯨鯢の又魚の左大沖が都賦五書に於て郡なるに市瓜立ちと押し市の始と豊大商市城と當りひ列彦豊とつひひの時山城伏見の民家令と世智とけ地多く引梅りて是乃賈人交易して繁昌の地とあり今の伏見町とせん諸奥も市城のありく市瓜は其賣詞と安しくと為聲も喚ぶ秀吉と市通駕の時其賣聲市耳も入安くとと夫の菓の賣聲さうんうそれあま靱やひ魚たんと宣ふ因茲其町の名瓜靱と稱く今の市靱町是之郊く交易の場と向を向凡とつて市瓜の市靱と向合とる小より名とせり其初に鮮魚向を十八軒小極まると今の雜喉場ひむり鹽橋といふ所之其後慶安弟應のに鮮魚向を安土町後後町のやうふあり今の上奥登町とあふたくと市瓜亭とを沖上りといふ二月より十月といふ温氣され上奥登町(運送)ぬれ鮮魚鱈ぬれ人の雜喉場(浮舖)とせりあま毎朝市

井上 福田七十六

とより十月より二月まで本肆みく買ふ厥后延寶の頃より為南浦の漢人本舖(運送)る瓜厭ひを運ぶ元舖と今の地(行移)永まると鮮魚の市瓜立るとあま初靱所生魚乾魚の向をのつるあまかうり後世別して阿波屋(行移)今新靱町といふ毎年六月廿八日例祭市靱喉場より市靱ひも物と神樂の市靱喉場一着居ありそれより陸地より小向物店より市靱所へ入る後世今の起物一市靱所と遷改

廣教寺 西平頼吉市瓜甚佳殿

本尊阿弥陀佛 初に青蓮院尊絶法親王の所念持仲人

脇檀小宗祖を人花市内跡上人の教と安並一市堂額 願慶堂と書改

徳間より登徳太子七之祖の教瓜安並改

市堂額 法め上人の書改

尚寺の崩基に本頼寺す二代覺如上人の季子若宗上人の書改

市堂と林次又ひ寺の書院の庭中真妙あり山水が結ゆ風系いち

ある古梅古楊ある大樹の樹多敷寄屋の額に摩尼室と書

蓋堂の書く四方市中されとも芳樹茂く山林のぬ

敷屋町龜糸 阿波屋極盛登町後世の橋の南諾と元禄年中又尺餘の

何口の仲(放)り年毎くあ園方の漁師集り云やあり財地川の細く大龜

と獲りぬれ大坂登町とあり所の若初の登りそ瓜語且は漢人もつて

亦放ちやぬれ是より毎年四月酉日ふあ瓜つと心

其後は町中水火の難なりとせ



雑喉場  
奥市



福四十七

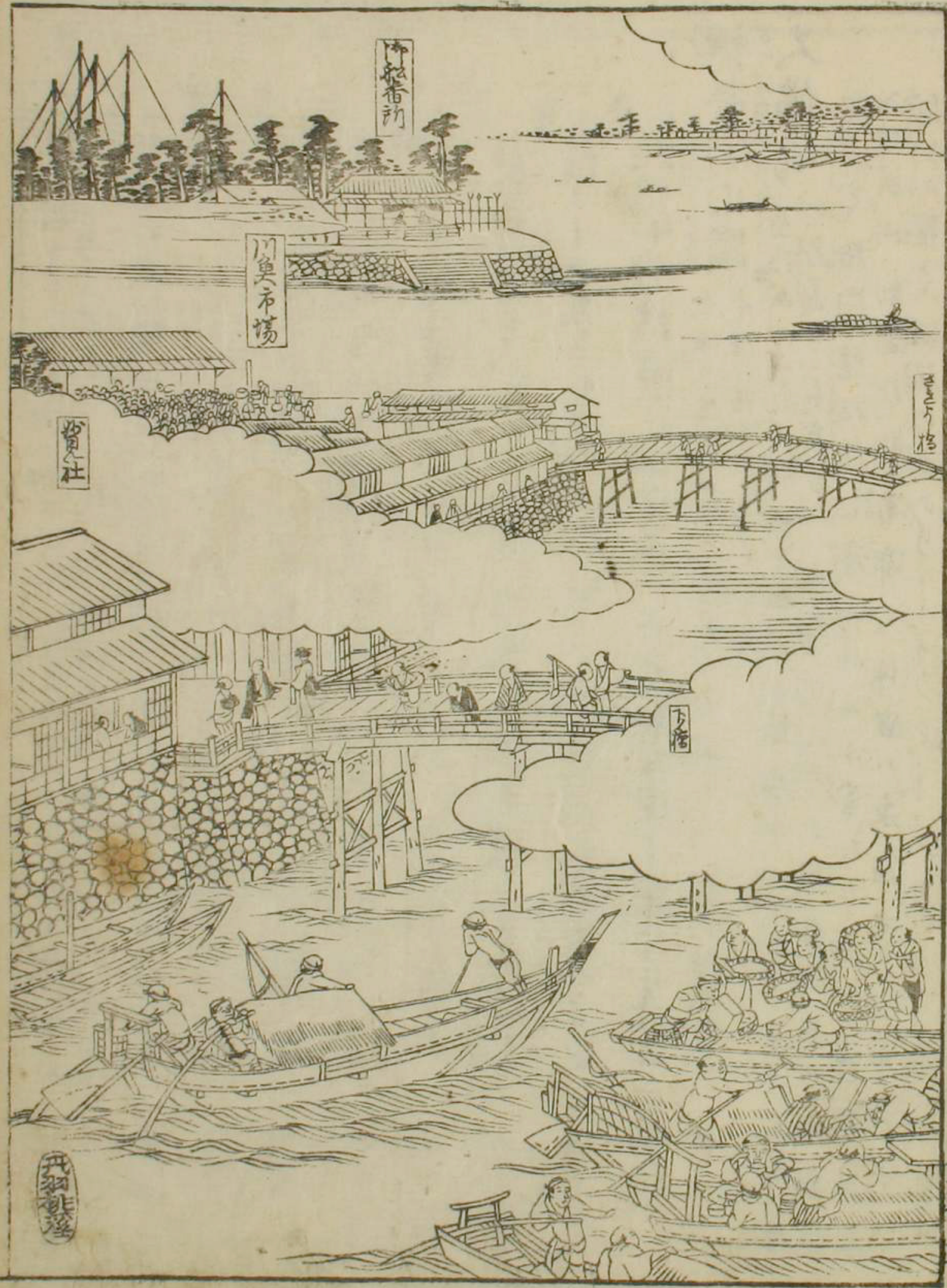
釣毒小  
つろ  
あつ所の  
あつ所の  
市丸  
ちり  
半川の  
都丸  
紅丸



丹羽桃屋

井上





芭蕉が  
 本のことば  
 けし繪と極細と  
 あふこと  
 只このうらみとるれ  
 天下宗道のまゆあふ  
 ざこ場の奥のふし海船の  
 諸州の浦々より群と行く  
 ちに着る一日毎に賣擲半  
 除く王様が  
 ねの鐘もけ申  
 わらんとや  
 ありれたる

其二  
 ごと

武羽

井上

樽四ノ十







舟具店の隣  
 多し帆本俵  
 船大層大破  
 船の下及々  
 買入ありい  
 やりの待女  
 帆本俵  
 業あり



挑渡画

井上

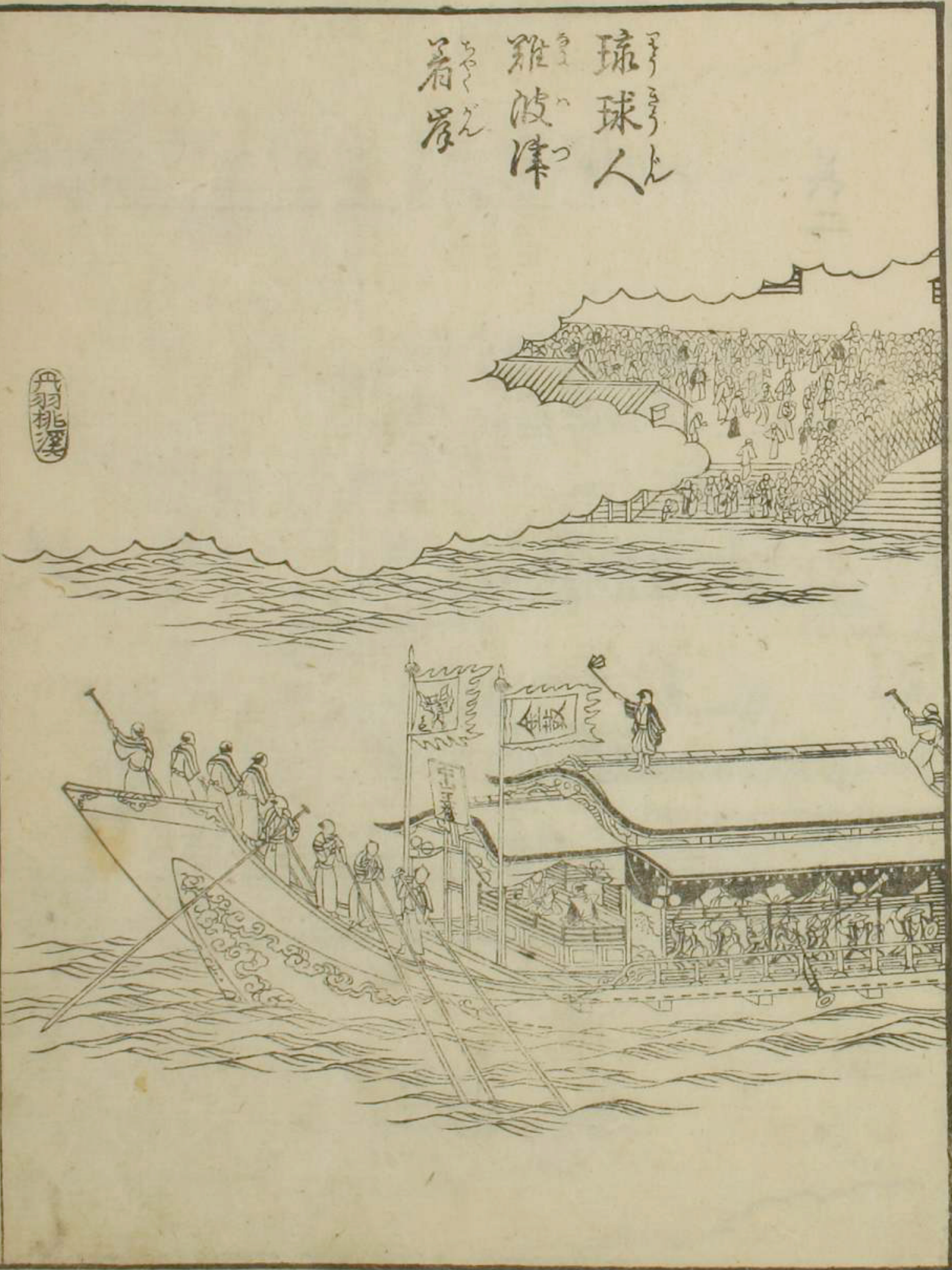
船具店



攝八十一



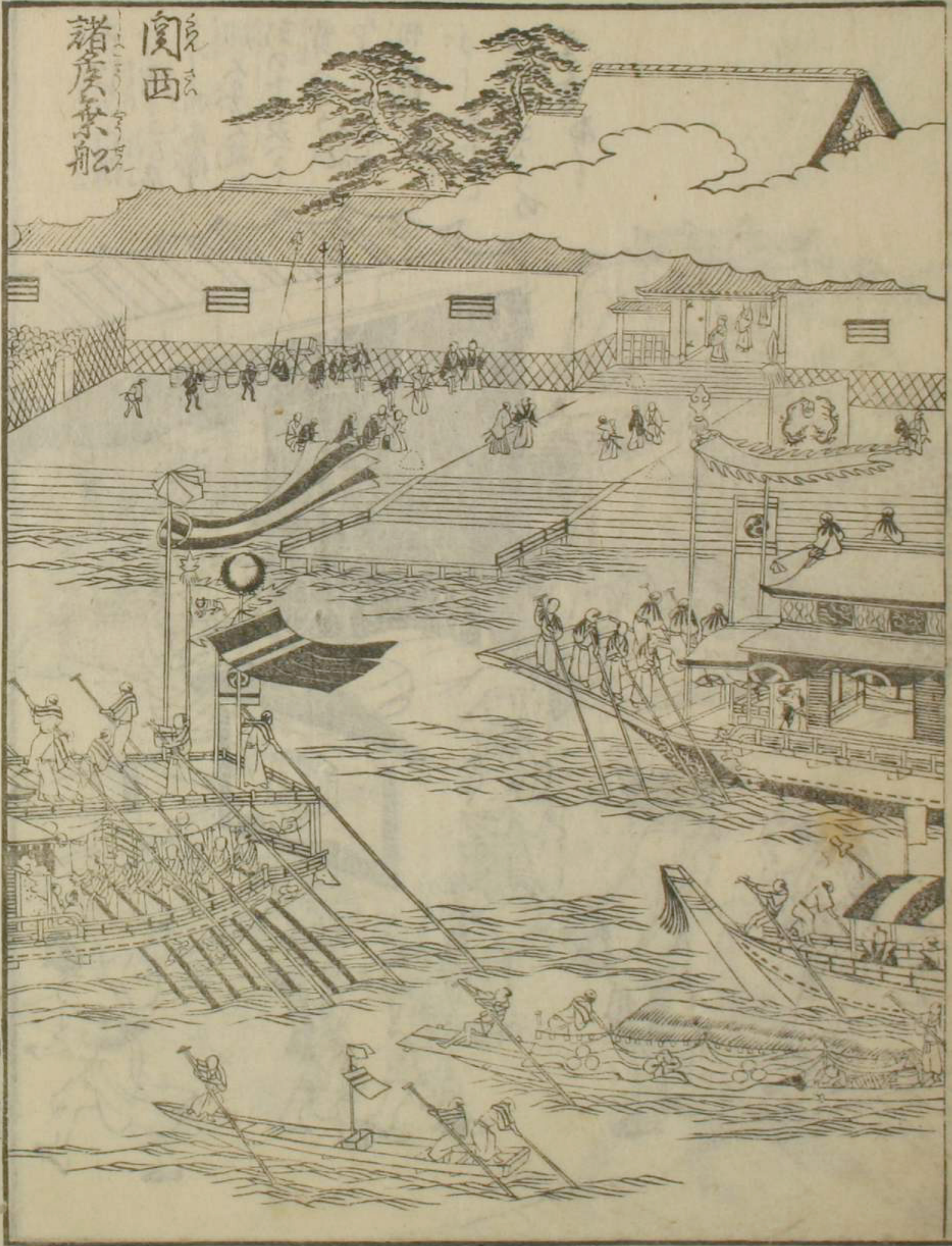
琉球人  
難波津  
着岸



丹羽桃溪

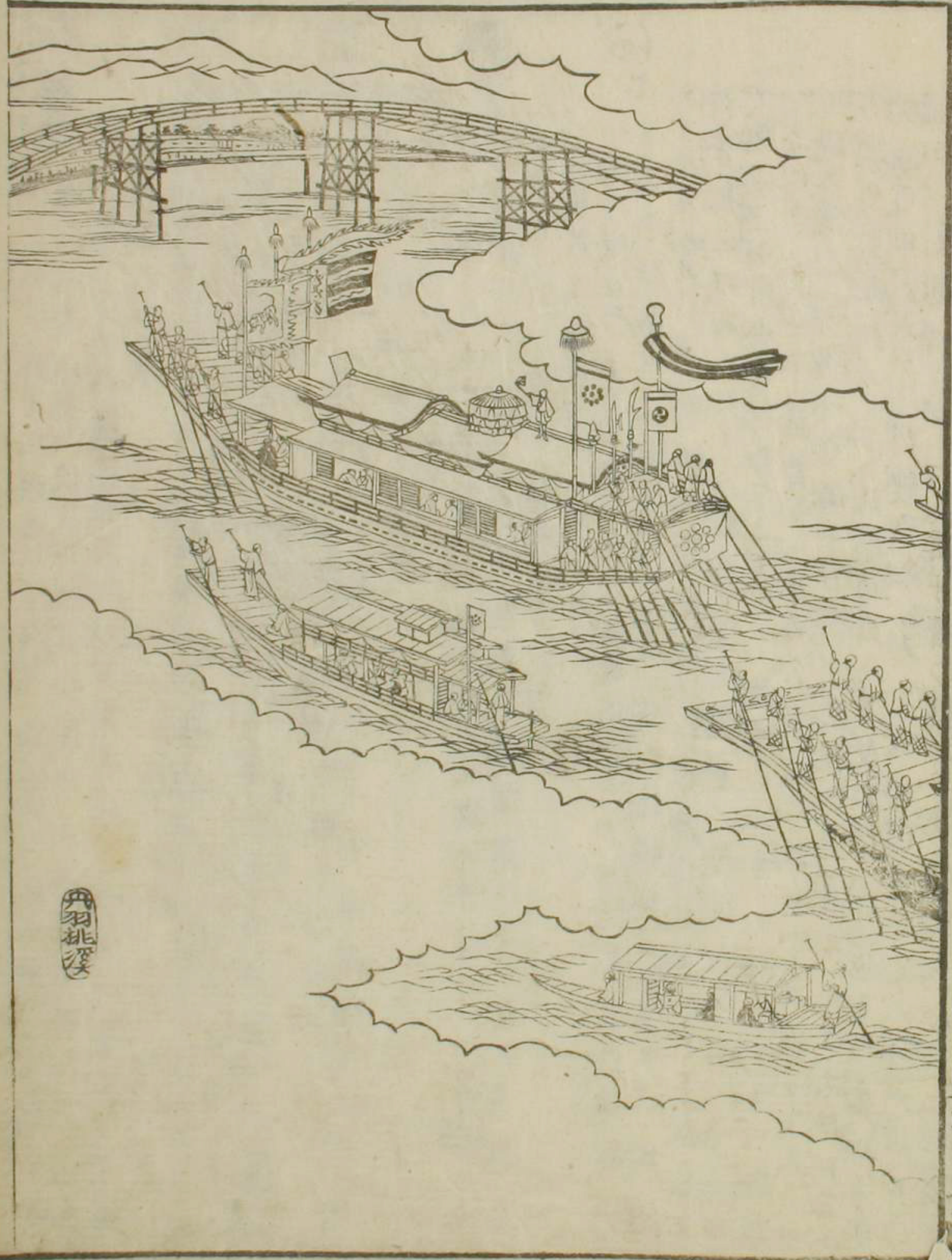
井上

西  
諸侯乗船



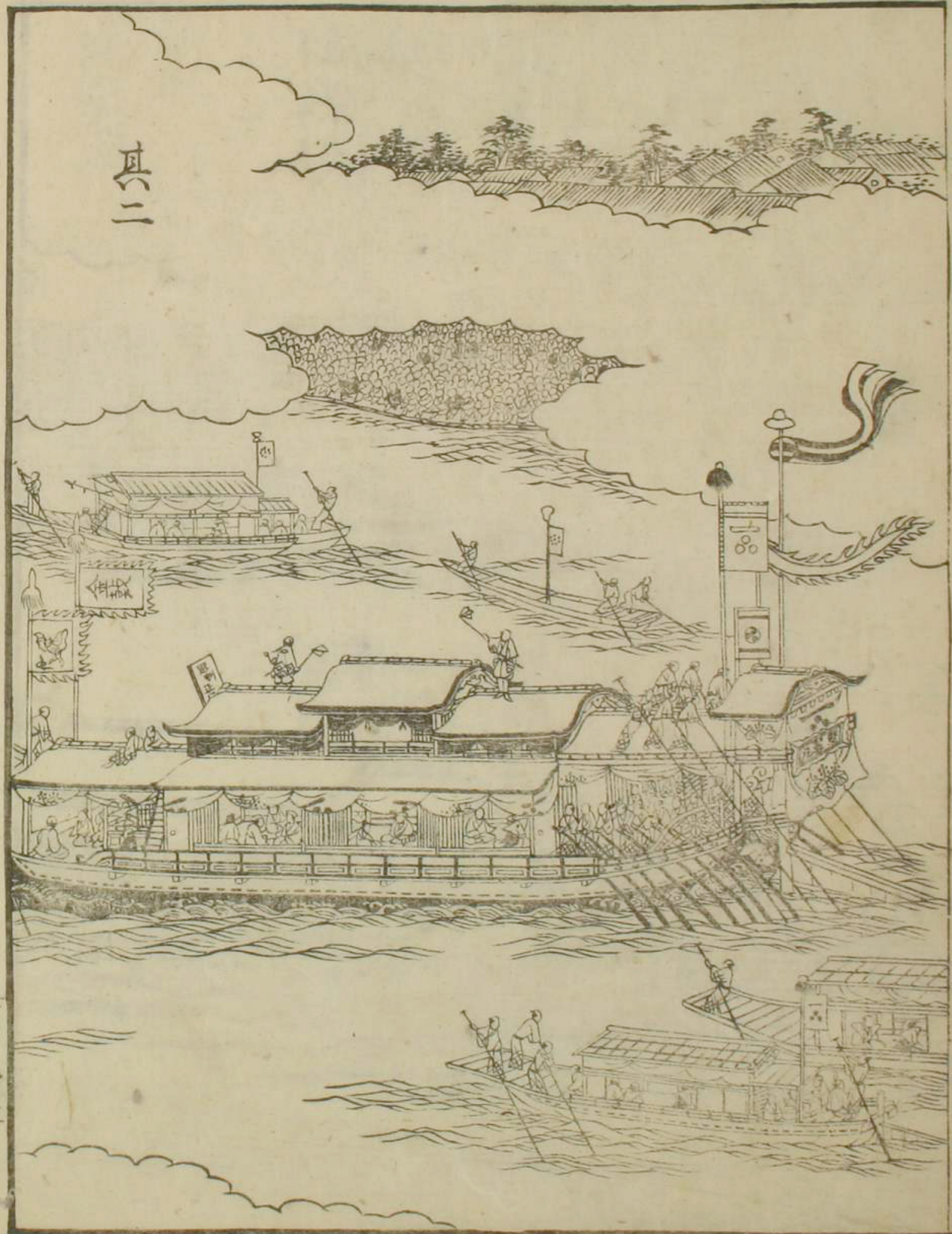
堀四八士





舟羽挑渡

井上



其二

樋八士







安治川橋

ある夕ぐれは橋のうへそ  
 疎く友をらふかきりて日  
 むらあふ金文七が  
 の五人男伊達南あつとら  
 士く喧嘩しく遊具士と  
 尺八くたれ殺し橋の  
 うよりの中一真さうさ後  
 そあうりそんが之騒動と  
 あり又人の者刑目イヤ  
 コシクシ屋舎の人政  
 芝居の通へありそこの  
 まへれあわぬのもはし



種四ノ八十四

丹羽北

イ井セララヌまぢの者ハ  
 射りややまてまはひハ  
 むりの半の落おれ  
 大星由らぬる所直で  
 さけひ分らるるよ  
 の内蔵助でハかり落  
 かすこも影はさ  
 芝居でさうとらとま  
 一われ

河口のゆる  
 船とみり  
 半の帆  
 一目  
 子  
 表  
 船  
 女



井上



難波海

西成郡小扇記の免延喜式云東宮十嶋祭御巫生嶋巫  
並吏一人御琴彈一人神部二人及内侍一人内藏

三代實錄云元慶五年未二月十二日首途自大和國經山城河陽宮  
到攝津國難波海解除云云

たごえはけ道みく押照る難波の海とあつたなりと

難波沖

あつたの海小  
千載

難波海志原海とあつたなりと

難波川あつたの沖はけはけのあつたなりと

あつたはけはけのあつたなりと

難波浦

又難波は浦とも海と西成郡と指す  
一説あつたの郡難波村とつり

これと君あつたの浦あつたなりと

あつたの浦あつたなりと

あつたの浦あつたなりと

攝田八十五

井上

難波江

難波江は江も難波江は江も海  
若中橋のやうなり

あつたの江あつたなりと

あつたの江あつたなりと

あつたの江あつたなりと

難波水門

西成郡今の水坂小  
千載

あつたの難波水門あつたなりと

難波道

方角石小  
千載

あつたの難波道あつたなりと

難波直

一説云里村の  
難波の波は名なりと

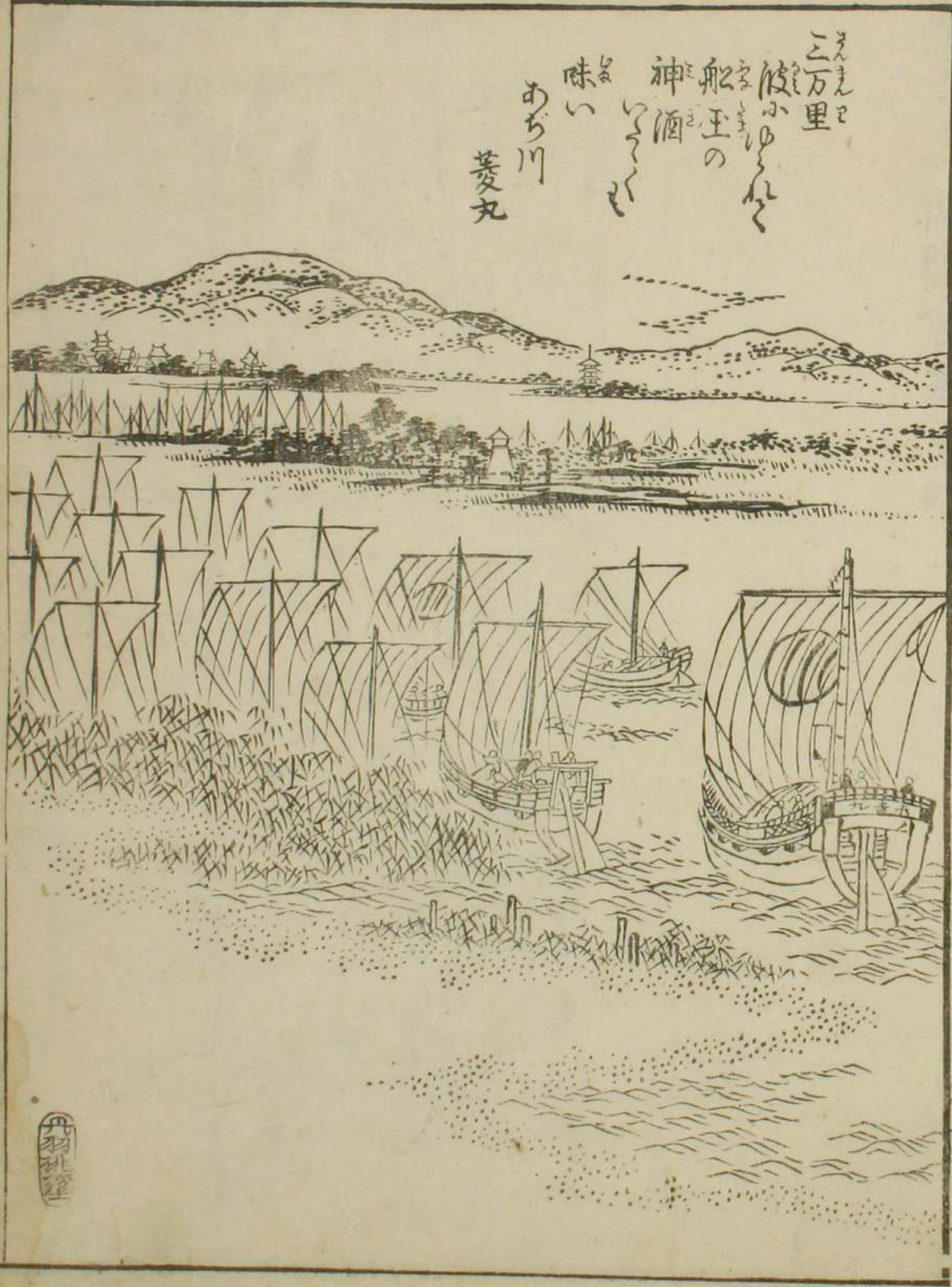
あつたの難波直あつたなりと

柏園

或云今宮村小あり古の位名郡の界と  
今ささるなり

あつたの柏園あつたなりと

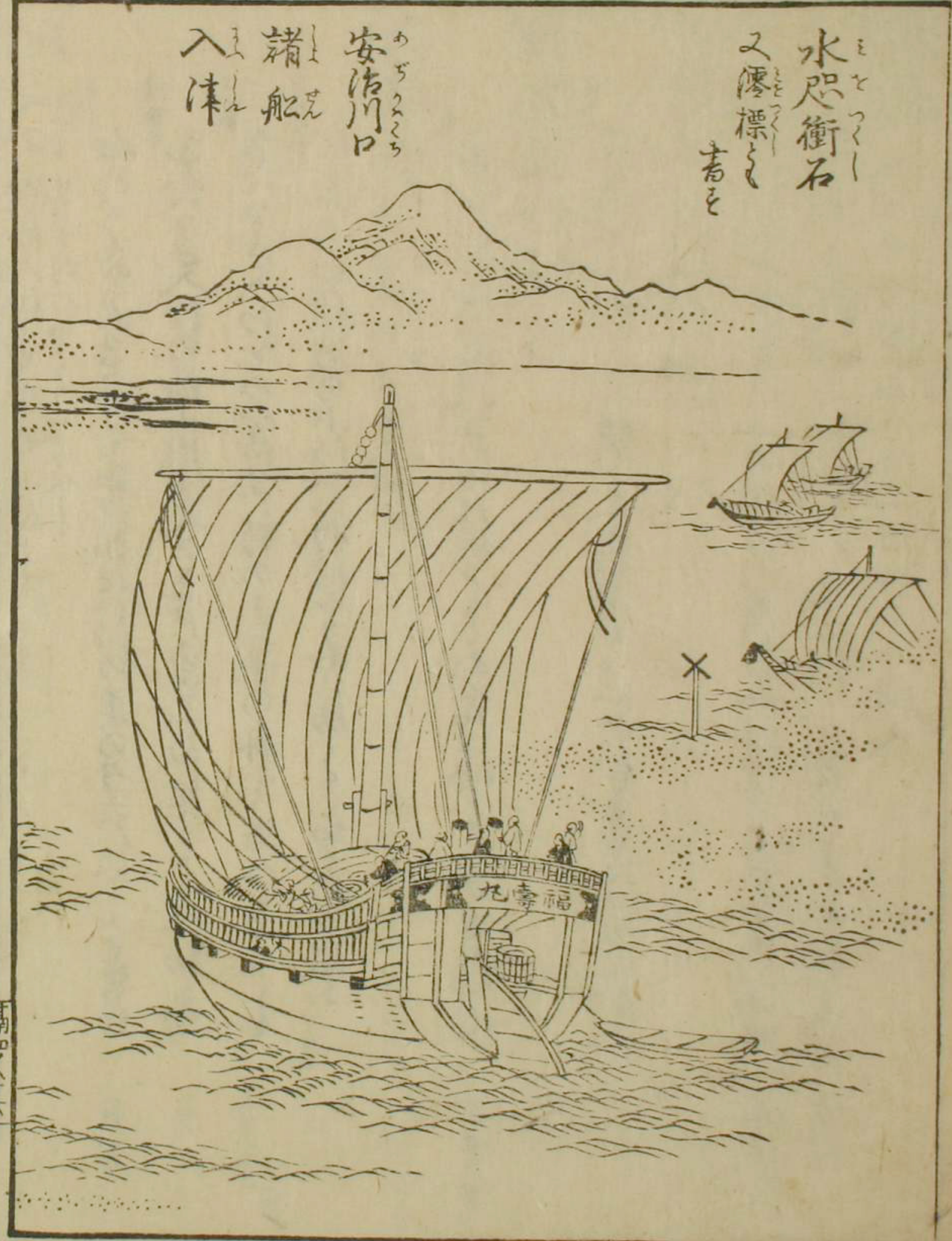




三万里  
 彼小舟  
 船王の  
 神酒  
 味い  
 あぢ川  
 菱丸

羽田

井上



水尺衝石  
 又標  
 安治川口  
 諸船  
 入津

福四八十六



樓名 今さきさき波或云福崎のやうくとそ一名論の巻といふ

義經系時運橋の端とてゆへ名といふ

千載 難波玉柏石 名をふるふ

源後撰抄

難波江の藻草はけり玉柏あはれはた人と名を

哥林の林云いふ事多し一難波の玉柏と石板といふ事にはふたつあり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

二つあり俗あり其石板玉柏といふ事あり

福四七尾



攝津名所圖會卷之四

八冊之内



